

## ▶ Information 精神科

### 精神科薬物療法認定薬剤師として

大岩 眞二 OHIWA Shinji

ハーブ調剤薬局

薬剤師は各々得意分野をもっている。専門的な教育を受けていないうちは自己満足の枠をなかなか脱しきれないのも事実だと思う。いま行っていることが現代の風潮にあっているか？ この道は正しいのだろうか？ それらを確信、修正する制度が、専門・認定薬剤師制度であると思う。

精神科専門薬剤師（BCPPS）、精神科薬物療法認定薬剤師（BCPPP）には、①ベースとなる薬剤特性の熟知、②抗精神病薬の多剤大量併用療法、抗うつ薬の多剤少量併用療法、向精神薬の長期漫然投与などの是正に対する取り組み、③疾患特性（統合失調症の混乱・妄想・ノンアドヒアランス、うつ病患者の心理的視野狭窄状態による自殺願望、境界型人格障害患者の過剰反応・危険行為など）や治療・治癒過程（急性期、回復期、維持期）、環境調整、環境対応、家族教育などを見極めたうえでの、患者個々への対

応と服薬教育と指導——という3本柱がある。これらを習得し実践した者が真のBCPPS、BCPPPになるのだと思う。

私がBCPPPとなり約1年が経過したが、この間、Aichi Pharmacist Forumで開局薬剤師を対象に「精神科の患者さんで困ったことはありませんか」という精神科患者に対するコミュニケーションについての講演や、日本精神科看護技術協会愛知県支部で看護師を対象とした「精神科薬物療法（現状、方向性、副作用等）」の講義を実施した。今後、家族会に対する講演会も予定している。

専門・認定薬剤師は資格取得後からが本当のスタートである。その資格が認められるのも、自己満足で終わるのもわれわれの活動次第である。今後も、BCPPS、BCPPPの一つの方向性でもある精神科医療に対する底上げに、微力ながら貢献できればと考えている。